

山口市(阿東・徳地ほか)地域で見出された中国産移入植物

三宅 貞敏¹⁾

はじめに

1900年代から始まった西南日本の林道開設に伴って、その法面保護のため多くの外国産植物種子が吹き着けられてきた。2000年代に入ると中国・韓国産のものが目立つようになり、これらの中には日本種より大きく生長しているもの、例えばメナモミ、カラスノゴマ、ヨモギなど……日本との共通種については区別が出来ない状況であり、近年在来種との遺伝子攪乱が指摘されている。この報告は長門部と接する島根の一画での記録であるが、他地域の状況、種構成から見て中国産種と推定され、いずれもイタチハギに伴って播種されたものである。現在は遷移が進行してススキ、カナムグラ、クマイチゴ、ウツギなど外来種が侵入し衰退～衰退状況にある所と現況繁茂の所がある。

今まで意識的に見ていなかったが、報告が出てこないのもので昨年(2012)見直して見た。2013年は集中豪雨等の土砂崩れで立ち入ることが出来なくなっているのも、ひとまず報告しておくことにした。中には同定の難しいものもあるので、標本写真を加えておいた。

結 果

凡 例

・凡その産量a=100株以上・b=100株以下・c=50株以下・d=消滅、記録内容 標本*・p.=写真・o.=観察
・産地表示(阿東)長門峡～生雲道(=長門峡大野～生雲道-県344号線)、築地～徳地林道(=築地～白井谷林道-大規模林道の一部)

シベリアイワタデ 又分蓼 *Persicaria (Polygonum) divaricatum* L.「中国高等植物図鑑」1-1136図(1972)(タデ科) *Aconogonon divaricatum* (L.) Nakai ex Mori 種小名のdivaricatumは2分岐(花序)の意。

本種は中国の北部域、朝鮮あたりの産のようであるが、唯1株が見られた。日本では2001年九州(宮崎-荒木徳蔵)の記録がある。

高さ1mくらい伸び、花序は大きく花は白色。

山口県：山口市(阿東)築地～徳地林道 d 8.15.2006* (写真1・2・3)

トウピランジ 蠅子草 *Silene fortunei* Vis.「中国高等植物図鑑」1-1280図(1972)、タウピランジ(中井1935)(ナデシコ科)

花は8～9月に開き白色。日本のカワラナデシコに似るが、花梗は粘着する。基部の葉は披針形で幅広く1.5cm位ある。

山口：山口市(阿東)長門峡～生雲道 a 8.05.2012p.*・十種ヶ峰林道 c 10.06.2011* (写真6)・10.07.2011*・8.20.2013(山口栽-写真4)・9.13.2013(山口栽-写真5)

¹⁾MIYAKE, Sadatoshi 〒753-0024 山口市金古曾町8-3

シマバライチゴ *Rubus lambertianus* Ser. 高粱泡「中国高等植物図鑑」2-2259図(1972)、(米倉2012)(バラ科)

葉形はミヤマフユイチゴに似3~5浅裂、上面下面脈上細毛。枝はつる性で法面を垂れ下がり発根する。花は10~11月に開き白色、一花序も30個前後と多いが、ここでは寒さのためか赤く粒果になるものは少ない。日本では長崎、熊本県に野生のものが希産する。

山口：山口市(阿東)築地~徳地林道(徳地側) a 8.20,2012*・8.23,2012*・(群落) 8.25,2012(写真7)・9.13,2012*(写真9)・1.11,2013*(写真8)

トウコマツナギ セイタカコマツナギ *Indigofera bungeana* Steud.「中国高等植物図鑑」2-2507図(1972)

Indigofera bungeana Walp. var. *bungeana* Walp. (米倉2012)(マメ科)

日本 2000年ごろ渡来。九州(宮崎県)

日本産の種は草本状(根元は木質化)高さ1~1.5mだが、移入種は高さ3mを超え、太い部分は径5cm位になる。他の形態は大きい違いがないという。

山口：山口市(阿東)長門峡~生雲道a 11.04,2003*p・7.13,2006*・十種ヶ峰林道b 10.12,2011・周南市(徳山)大道理 大崩~新畑a 12.12,2003*

島根県：津和野町(日原)滝元林道8.05,2006*(写真10)・(津和野)笹山林道11.30,2012*三宅オオバメドハギ *Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl. (大橋ほか2009、米倉2012)(マメ科)

日本(移入)本州(愛知県尾張旭市 万博駐車場跡地-村松正雄2006)(大橋・村松2008)、四国(愛媛県今治市2001・中山町2002)(大橋・根本・伊藤2003)

山口県 岩国市錦町(真崎 博2008)・下松市来巻(真崎 博2009 大橋広好同定)

小葉は楕円形、上下鈍形、網状脈目立つ。葉上面、下面・無毛とされるが僅毛もあり、萼裂片鋭尖や尾状に伸びる。

山口：山口市(阿東)長門峡~生雲道c 7.27,2006*(写真11)

トウクサハギ *Lespedeza floribunda* Bunge (大橋ほか2009、米倉2012)(マメ科)

日本(移入)本州(愛知県尾張旭市 万博駐車場跡地-村松正雄2006)、四国(愛媛県今治市2001・中山町2002、香川県観音寺市1999)(大橋・根本・伊藤2003)

山口県 岩国市錦町(真崎 博・久2008 大橋広好同定)

小葉は楕円形、枝に白伏毛、花は紅紫色。

山口：山口市(阿東)長門峡~生雲道c 7.27,2006*(写真12)・十種ヶ峰林道c 9.06,2012*(写真13)

シベリアメドハギ *Lespedeza juncea* (L.f.) Pers. (大橋ほか2009、米倉2012)(マメ科)

日本(移入)本州(愛知県尾張旭市 万博駐車場跡地-村松正雄2006)

山口県 岩国市錦町(真崎 博・久2008 大橋広好同定)

小葉は狭倒卵形~狭楕円形、鋭~鈍頭、葉上下面伏毛。カラとの区別は難しいという。

山口：山口市(阿東)長門峡~生雲道c 7.27,2006*(写真14)

メドハギ *Lespedeza cuneata* (Dumon de Courset) G.Don var. *cuneata* (米倉2012)(マメ科)

Lespedeza cuneata (Dumon de Courset) G.Don (大橋ほか2009)

中国と日本のものと同種であり、他の中国産種と混生しているので区別は困難と思われる。

小葉は倒卵形～狭倒卵形、切形。葉上面無毛、下面伏毛。

山口：山口市（阿東）長門峡～生雲道a 11.04,2003・9.11,2006・築地～徳地林道b 7.12,2006*・9.02,2006*
(写真15)・9.11,2006*・9.13,2012*・生雲b 9.21,2006o。・十種ヶ峰林道b 7.22,2006*・7.27,2012*

島根：吉賀町（六日市）滑峠b 10.20,2011o。・8.31,2012o。

マルバハギ *Lespedeza cyrtobotrya* Miq. (大橋ほか2009、米倉2012) (マメ科)

日本 共通種 山口県 (普通)

葉上面無毛、下面僅かに伏毛、萼円頭～やや鋭頭。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 9.20,2006*・9.13,2012* (写真16)・十種ヶ峰林道c 9.13,2012 (写真17)・野道10.15,2006*p。

島根：津和野町（日原）左鏡 奥谷口9.19,2012o。

ツクシハギ *Lespedeza homoloba* Nakai (米倉2012) (マメ科)

日本 共通種 山口県 (普通)

葉上面無毛、下面微小伏毛。花序は8～13cmと伸びる。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 9.20,2006*・8.25,2012* (写真18)・9.13,2012*・十種ヶ峰林道c 10.11,2012*・嘉年～生雲道 吉部野（峠）c 6.29,2003*

島根：津和野町豊稜9.20,2006*・10.12,2006*

オクシモハギ *Lespedeza davidii* Franch. (米倉2012) (マメ科)

日本（移入）では本州（山口県美和町－真崎博1999）が初記録、四国（愛媛県西条市－伊藤2001・新居浜市－伊藤2001・香川県観音寺市－伊藤2001）（大橋・根本・伊藤2003）

小葉楕円形～ほぼ円形、葉上面下面とも長伏毛。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 9.02,2006* (写真20)・9.14,2006 (写真19)・8.09,2012*・10.01,2012*・十種ヶ峰林道c 10.7,2011o。・10.12,2011* (写真21)・9.06,2012*

島根：津和野町（日原）滝谷林道9.02,2006*

チヨウセンキハギ *Lespedeza maximowiczii* C.K.Schneid. (大橋ほか2009、米倉2012) (マメ科)

日本 共通種。本州（山口県田布施町－南敦1995・鹿野町－真崎2008）、四国（愛媛県松山市－伊藤隆之2005・新居浜市－伊藤2005・四国中央市－伊藤2005）・高知県仁淀川町－栽－中沢保2007, 2009）（大橋・伊藤・大橋2010）

山口県（ごく稀）「山口県産高等植物目録」岡ほか（2000）

小葉長楕円形先端鋭尖、葉上面有毛、下面密生、萼片針状に伸びる。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 9.11,2006*・8.09,2012*・8.23,2012* (写真22・23)・10.01,2012* (fr.)・十種ヶ峰林道c 9.03,2011o。・7.27,2012*・8.09,2012*・10.11,2012*

ミヤギノハギ *Lespedeza thunbergii* (DC.) Nakai subsp. *thunbergii* f. *thunbergii* (米倉2012) (マメ科)

Lespedeza thunbergii (DC.) Nakai (大橋ほか2009)

日本（移入）

山口県 不明。

小葉楕円～長楕円～卵形、葉上面無毛～散生、下面伏毛、萼片鋭尖。ピッチェウヤマハギとの識別が

難しいものがある。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道b 7.12,2006*・7.27,2012*・9.03,2012*・長門峡～生雲道c 10.11,2012*p.・十種ヶ峰林道b 8.15,2003*・7.22,2006o.・10.11,2012*（写真24）・吉部野（峠）10.12,2006o.・生雲 須の原10.02,2003*p.・美祢市（美東）薬王寺 明敷峠8.24,2012o.

島根：吉賀町（六日市）恋路山トンネル付近8.10,2007o.・10.05,2012*・津和野町（日原）奥谷口8.24,2005o. ピッチュウヤマハギ ニシキハギ *Lespedeza thunbergii* (DC) Nakai subsp. *thunbergii* f. *angustifolia* (Nakai) Ohwi (米倉2012)（マメ科）

山口県（やや稀）移入「山口県産高等植物目録」岡ほか（2000）

小葉楕円形、上面短伏毛、下面伏毛、がく片は尖る。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 9.11,2006*・8.09,2012*・9.13,2012*（写真25）・十種ヶ峰林道c 10.12,2011*（写真26）・9.06,2012*（写真27）・10.11,2012*・嘉年 吉部野～生雲（峠）10.12,2006o.・（徳地）鬼ヶ河内川9.08,2002*・阿武町福田上9.14,2006*p.・久瀬原c 9.14,2006*・美祢市（美東）薬王寺 明敷峠c 8.24,2012*・岩国市（本郷）羅漢山c 8.03,2012o. (bu.)・周南市（鹿野）清涼寺9.13,2008*（写真28）

島根：津和野町（日原）円の谷8.15,2006o.・滝谷林道9.02,2006o. (bu.)・奥谷口8.24,2005o.・10.16,2006o.・吉賀町（六日市）恋路山トンネル付近10.05,2012*・滑峠8.31,2012* (bu.fl.)

ハナハギ *Campylotropis macrocarpa* (Bunge) Rehd. var. *macrocarpa* (米倉2012)（マメ科）

Campylotropis macrocarpa (Bunge) Rehd. (五百川ほか2008)

日本（移入）では2000年10月に高知県土佐清水市で初めて記録され、その後愛媛県西条市－伊藤2003・今治市－伊藤2005・松山市－伊藤2005（大橋・米倉・小川2003）でも記録された。

山口県 南 敦・岡村敏子「山口県山口市徳地にハナハギを記録する」（山口の植物16 (no.48) p.2 2013) の記録が出ていた。

小葉楕円～広楕円形、ツクシハギやマルバハギに似るが花梗が伸びる。葉上面無毛、下面伏毛、莢果側面無毛のもの。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道b 9.11,2006*・9.20,2006*・9.03,2012*・9.13,2012*（写真29）・10.01,2012*（写真30・31）・10.08,2012*p.・十種ヶ峰林道c 9.06,2012（花薄・花濃し）o.・10.11,2012・阿武町福田上 長沢9.29,2005*

トンボハギ タカサゴハギ *Campylotropis macrocarpa* (Bunge) Rehd. var. *hupehensis* (Pamp.) Iokawa & H. Ohashi (五百川ほか2008、米倉2012)（マメ科）

ハナハギの豆果の側面が有毛のもの。四国（愛媛県松山市2005・四国中央市2005－共に伊藤隆之－（大橋・伊藤・大橋2010）

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 10.01,2012* (fl.fr.) p.・十種ヶ峰林道c 10.12,2011* (fr.)

フウロソウの一種 *Geranium* sp. (フウロソウ科)

葉は5深裂、上面、下面とも有毛、葉柄に下向き毛がある。茎の基部は倒伏し、1.5m位伸びる。花は白色。中国産と思えたが、種名は不明である。

山口：山口市（阿東）築地～徳地林道c 7.13,2012*（写真32）・8.23,2012*（写真33）・8.25,2012*p.

ヒトツバハギ *Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill. 叶底珠・一叶萩「中国高等植物図鑑」2-2903図、（米倉

2012) (トウダイグサ科)

山口県 萩市 (吉松1991)、光市 (牛島) から記録されている。ここのものは状況から中国産移入種と見られる。

山口: 山口市 (阿東) 築地~徳地林道c 8.15,2006*・8.09,2012* (写真35)・10.01,2012* (写真34)

レンギョウ *Forsythia suspensa* (Thunb.) Vahl 連翹・黄寿丹「中国高等植物図鑑」3-4648図 (1974)、(米倉2012) (モクセイ科)

葉は卵形、枝は長く伸びて地上に着くと発根する。花は3~4月に開き黄色、花弁は倒卵状楕円形、円頭。ここでは、1株のみ繁茂。

山口: 山口市 (阿東) 築地~徳地林道c 8.15,2006*・9.02,2006* (写真36)・8.05,2007*・10.06,2011* (写真38)・4.01,2012* (写真37)

オキナワクマバナ *Clinopodium chinense* (Benth.) Kuntze subsp. *chinense* 風幹菜「中国高等植物図鑑」35308図 (1974)、(米倉2012) (シソ科)

クマバナの母種。一見クマバナに似るが、草丈が高く50~60cm、葉は卵形、基部はくさび形、葉の上面、下面とも毛がある。上面側脈は凹まず、茎に下向き毛を密生する。

山口: 山口市 (阿東) 築地~徳地林道8.23,2012*・長門峡~生雲道8.05,2012*・徳佐盆地p. (2003)・十種ヶ峰林道c 10.03,2011*・10.12,2011*・10.12,2012* (写真39・40・41)

島根: 吉賀町 (六日市) 恋路山トンネル付近8.10,2007*・10.05,2012*・折本~河津林道10.04,2007o。
この他

ケアリタソウ (メキシコ原産)、メマツヨイグサ (北アメリカ)、アメリカイヌホオズキ (北アメリカ)、ブタクサ (北アメリカ)、イワヨモギ (北アジア)、ヒメイワヨモギ (十種ヶ峰林道7.27,2012-写真42) など、大形 (1~1.5m) で繁茂したカナムグラ、カラスノゴマ、オトコヨモギ、ヒメヨモギ、シロヨメナ、メナモミ、ゴボウなどは中国との共通種で移入かどうか分からない。

文 献

中井猛之進 (1935) 東亜植物。岩波書店。

中国科学院植物医研究所主編 (1972~1976) 中国高等植物図鑑。1~5。科学出版社。

外山三郎 (1980) 長崎県植物誌。長崎県生物学会・長崎県理科教育協会。

岡 国夫ほか (真崎 博主編) (2000) 山口県産高等植物目録。山口県植物研究会。

清水建美編 (2003) 日本の帰化植物。平凡社。

太刀掛優・中村慎吾編 (2007) 改訂増補 帰化植物便覧。比婆科学振興会。

米倉浩司 (2012) 日本維管束植物目録。北隆館。

大橋広好・根本智行・伊藤隆之 (2003) ハギ属の帰化植物4種。植物研究雑誌 (J. J. B.), 78: 1. 50~54. 津村研究所。

大橋広好・米倉浩司・小川 誠 (2003) マメ科の新帰化植物ハナハギ。植物研究雑誌, 78: 1. 54~55.

五百川裕・大橋広好 (2003) マメ科ハナハギ属の分類学的研究 補遺と正誤。J. J. B., 78: 2. 103~104.

五百川裕・大橋広好 (2008) *Campyloptropis* (Leguminosae) of China, an Enumeration and Distributi.

(中国産マメ科ハナハギ属の種類と分布) J. J. B., 83 : 1. 36~59.

大橋広好・村松正雄 (2008) 愛知万博尾張旭駐車場跡地に帰化した中国産メドハギ類. 植物研究雑誌, 83 : 6 359~363.

大橋広好・根本智行・大橋一品 (2009) A Revision of Lespedeza Subgenus Lespedeza (Leguminosae) of China. (中国産ハギ属ハギ亜属の分類-メドハギ類) J. J. B., 84 : 3 143~166.

大橋広好・根本智行・大橋一品 (2009) A Revision of Lespedeza Subgenus Lespedeza (Leguminosae) of China. (中国産マメ科ハギ属ヤマハギ亜属の分類) J. J. B., 84 : 4 197~223.

大橋広好・伊藤隆之・大橋一品 (2010) マメ科の帰化植物3種. 植物研究雑誌, 85 : 1 47~50.



写真1 シベリアイワタデ



写真2 シベリアイワタデ



写真3 シベリアイワタデ



写真4 トウピランジ



写真5 トウピランジ



写真6 トウピランジ



写真7 シマバライチゴ (群落)



写真8 シマバライチゴ

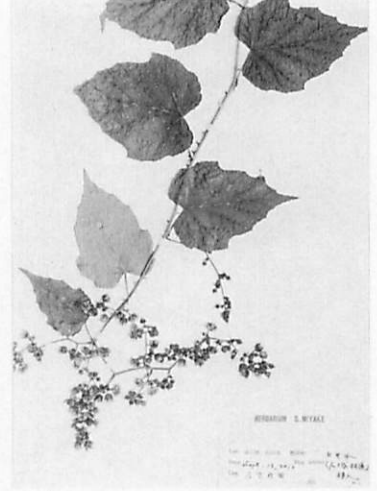


写真9 シマバライチゴ



写真10 トウコマツナギ



写真11 オオバメドハギ



写真12 トウクサハギ



写真13 トウクサハギ



写真14 シベリアメドハギ



写真15 メドハギ



写真16 マルバハギ



写真17 マルバハギ



写真18 ツクシハギ



写真19 オクシモハギ



写真20 オクシモハギ



写真21 オクシモハギ



写真22 チョウセンキハギ



写真23 チョウセンキハギ



写真24 ミヤギノハギ



写真25 ビッチュウヤマハギ



写真26 ビッチュウヤマハギ

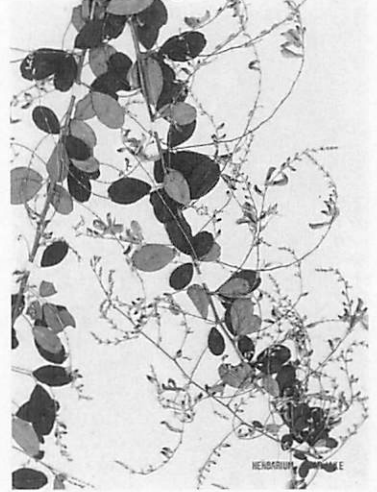


写真27 ビッチュウヤマハギ



写真28 ビッチュウヤマハギ



写真29 ハナハギ



写真30 ハナハギ



写真31 ハナハギ



写真32 フウロソウの1種



写真33 フウロソウの1種



写真34 ヒトツバハギ



写真35 ヒトツバハギ



写真36 レンギョウ

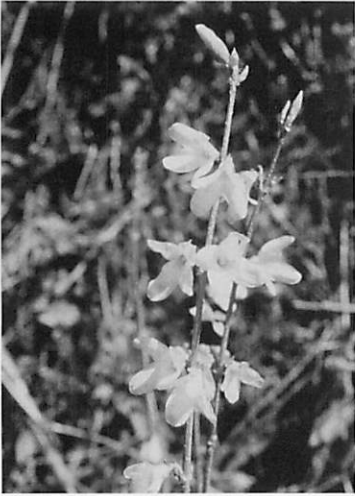


写真37 レンギョウ



写真38 レンギョウ



写真39 オキナワクルマバナ



写真40 オキナワクルマバナ

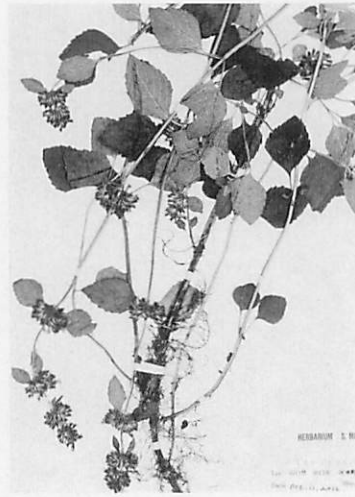


写真41 オキナワクルマバナ

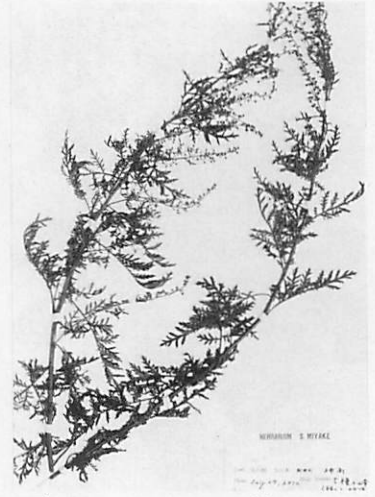


写真42 ヒメイワヨモギ